



2022.6.10  
第178号

**発行**  
福島県市町村教育委員会  
北会津支庁教育委員会  
北会津支庁教育委員会

**編集**  
福島県教育庁  
会津教育事務所

**編集協力**  
小・中学校長会

「あいばせ」から始まった旅



会津教育事務所

所長 西 牧 泰 彦

平成六年、白河市内の小学校で六年生を担当した際、白河駅から電車を利用して、会津若松市内を周遊する班別行動での修学旅行を実施しました。前年度までは、貸切バスで日光周辺を訪れる団体行動での修学旅行でしたので、大きな変更でした。当時はまだ、計画から実行までを子ども達の主体性に委ねる修学旅行は珍しく、学年百六十名を三十班に分けての規模となると前例もなく、教師側の実施計画は何度も見直しを迫られ、事故対応マニュアルの整備はもちろんのこと、事前学習の内容等についても、手探りの状態で、いくつもの懸案を解決しながらの取組でした。

その中でも、特に苦労したのが、班ごとの旅行計画の作成とそれに対する指導でした。学校にもよ

やくISDN回線のインターネットが使えるパソコンが数台配備された程度で、小学生向けの分かりやすい旅行や観光の資料も少ない中、計画に必要な情報を如何に集めるかが課題でした。このような中、大いに活躍したのが、「あいばせ」でした。ポスターのサイズで、両面二色刷りの四つ折り型の観光案内でしたが、観光協会のご厚意により、一人一人に「あいばせ」が配付できました。子ども達一人一人が「あいばせ」から情報をつかみ、関連する資料を調べたり、電話をして確認したり、中には、問い合わせに対して詳しい資料を送ってくださることもありました。そして、教師側もまた「あいばせ」を媒介にして情報を確認し、子ども達の思いや願い、計画作成の進捗状況に

- 令和四年度「会津教育事務所推進プラン」視点  
⑥に示した「持続可能な教育環境づくり【施策2】」の実現に向け、教職員の働き方改革の推進、学校の適正な管理運営と管理職・中堅・若手教員等の育成、不祥事根絶について、域内の市町村教育委員会をはじめとする地域や関係機関と連携を図り、管理業務を推進してまいります。
- 1 教職員の健康保持や児童生徒と向き合う時間・自己研鑽の時間を確保するため、「教職員多忙化解消アクションプランII」に基づく取組を推進します。**
- 学校課題の解決、魅力ある学校づくりに資するよう、人事事務を推進します。
  - モニタリング校支援事業における支援内容や成果等について、域内の公立学校への普及に努めます。
- 2 学校全体の教育力の向上を図るため、校長によるチームとしての学校マネジメントを推進します。**
- 校長会や教頭会、学校訪問等で情報提供や必要に応じた指導・助言を行います。
  - 学校訪問や研修会等を通し、組織マネジメント能力の向上に努めます。
- 3 校内服務倫理委員会等、様々な機会を捉えて教職員の倫理観・使命感の高揚を図る取組を支援し、不祥事防止に努めます。**
- 「信頼される学校づくりを職場の力で」等の効果的な活用の促進、情報提供に継続して努めます。
- 会津教育事務所は、校長のリーダーシップの下、児童生徒と教職員が、心身ともに健康で、保護者・地域から信頼される学校づくりのお手伝いをしてまいります。

管理関係重点事項

**社会教育関係**

～家庭の教育力・地域の教育力の向上を目指して～

**令和4年度社会教育に関する重点事項**

**1 家庭教育を支援します**

子ども達の健やかな育ちを支え、保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう研修の機会や支援の充実に向けていきます。

また、全国的にそして会津域内でも課題である「不登校」について、会津地区PTA代表者、家庭教育に携わる方等と協議も進めております。今年度は、3年次計画の2年目で、提言やリーフレット等にまとめていきます。

**2 地域と学校との連携・協働を進めます**

会津域内では、「地域に開かれた学校」から一步踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し子ども達を育む「地域とともにある学校」への転換、そして学校を核とした協働の取組を通じて、地域人材育成と地域社会の基盤の構築を図る「学校を核とした地域づくり」が進んでいます。

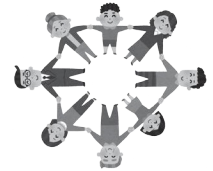
文部科学省の「令和3年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施調査」によると、全国の公立小・中・義務教育学校におけるコミュニティ・スクール(以下CS)導入は10,485校(37.3%)、地域学校協働本部が連携・支援している学校数は18,296校(65.1%)です。

会津域内のCS導入率は64.6%、地域学校協働活動本部が連携・支援している学校は74.5%と全国を上回っています。

CSと地域学校協働活動の相互の連携・協働から、学校の教育活動支援や多様な課題への対応がより効果的に進められます。各地域の実態や特色を生かした取組が一層充実されるよう関係者間の理解促進や連携強化を図ってまいります。

各重点事項の理解促進や課題解決のための研修会を実施します。詳細につきましては、案内やHP等をご覧ください。

- 地域連携担当教職員等研修会
  - ・ 期日 令和4年6月21日(火)
  - ・ 会場 やないづふれあい館
  - ・ 対象 教員等
- 地域学校協働研修会
  - ・ 対象 地域学校協働活動推進員等
  - ※ 期日等は今後お知らせします。
- 家庭教育支援地区別研修
  - ・ 期日 令和4年8月31日(水)
  - ・ 会場 北会津公民館
  - ・ 対象 家庭教育に関心のある方等



**令和4年度 会津教育事務所 指導の重点【前期】**

**会津の強み【これまでの学校訪問や各校の学力向上の取組から】**

- 1 児童生徒の興味関心を高め、思いや問いを引き出しながら「めあて」を設定する授業が多い。
- 2 ねらいを達成させるために児童生徒の思考の時間を確保し、様々な言語活動やICT機器等を活用した活動を取り入れ、考えを広め深める授業の工夫が多く見られる。
- 3 学びを支える学級集団づくりに取り組むとともに、個に応じた補充的発展的な学習の機会を設けている学校が多い。
- 4 家庭学習の習慣が身につく、計画的に家庭学習に取り組む児童生徒が増加している。
- 5 学校ぐるみでいじめや不登校の未然防止、及び将来的な社会的自立を目指した心温まる指導が行われている。

**会津の課題【令和元年度、令和3年度の全国学力・学習状況調査結果等から】**

- 1 算数・数学と英語が、全国平均正答率を下回っている。
- 2 自分の考えや意見を言葉で説明したり、記述したりすることが苦手な児童生徒が多い。
- 3 不登校児童生徒が年々増加傾向にある。(1,000人あたりの出現率が全国平均を上回っている。)
- 4 平日にテレビゲーム(スマホを含む)等を行う時間が増加している。

**目標1**

授業での言語活動の充実

**指導の重点**

- 1 主体的に追究・解決できる時間を確保する。  
※ 一方通行の画一的な授業からの脱却  
「学びの变革」を!
- 2 まとめ・振り返りの時間を確保する。
- 3 授業と家庭学習を連動させる。  
※ 「授業スタンダード」、「家庭学習スタンダード」  
「English Compass」のさらなる活用

**目標2**

新規不登校児童生徒の出現防止

**指導の重点**

- 4 教師による「居場所づくり」と児童生徒による「絆づくり」を促進する。
- 5 組織的な早期発見、早期対応による未然防止に努める。
- 6 個別の支援計画をもとにチームで支援する。
- 7 学習機会の拡充とその情報提供に努める。





## ふるさと三島と自分に誇りが持てる人づくり

三島町教育委員会教育長 山口 浩

三島町は、縄文時代の荒屋敷遺跡があり、早くから高度な文化が根付いた地域です。昭和49年、ふるさと運動を出発点に、地区プライド運動、有機農業運動、健康づくり運動、そして生活工芸運動という5つの柱によるまちづくりを進めてきました。この取組みの中で、各集落の講や雛流し、歳の神といった風習を受け継ぎ、地域のコミュニティーを守ってきました。

さて、これからの三島の教育を考えると、人口減少の中で、地域を担う人材の育成が大きな課題です。三島の教育で育った子どもたちが、ぜひ将来戻ってきて地域に貢献してほしいものです。

しかし、一方ではふるさと三島に思いを持ちながら、他県や世界で活躍してほしいとも思います。だからこそ、将来どこにいてもふるさとに誇りを持つ人間に育ってほしいと願います。

そのためには、自分の住む三島が大好きと言える子ども

に育てていきたいと思います。そして、物事を地球規模で考えながらも「足もとを掘れ、そこに泉あり」と矢澤源成町長がよく言われるように、自分の足もとから行動を起こすことのできる子どもを育てたいと思います。

具体的には、質の高い学びを実現するため、保小中連携教育を一層推進し、講師を招いた教職員研修や地域のよさを味わえる機会の充実に努めていきます。また、英語によるコミュニケーション能力を高めるための英語検定の奨励や国際感覚を育むため国連の職員を講師に国際理解教育を進めていきたいと思います。さらに、へき地小規模校のメリットを最大化しデメリットを最小化するために、ICT活用が切り札と考え、タブレット等持帰りの環境整備についても積極的に推進していきます。

「戦争」が起きるなど先行きが不透明で、将来の予測が困難な歴史の転換点において、誰一人取り残さず、教職員も安心して本務に集中できる教育環境を創るため、尽力していきたいと思います。

## 我がまちからの情報発信

北塩原村教育委員会

### 柏木城跡が北塩原村で初めて国指定史跡に

北塩原村には、いくつもの山城があります。その中でも令和4年3月15日に国指定史跡となったばかりの柏木城跡を紹介します。

この山城は戦国時代、会津蘆名氏が米沢の伊達氏による会津侵攻への領国防衛を目的として整備されたものとみられます。

当村では柏木城跡を平成26年度から令和元年度の6年間に発掘調査を実施しました。その結果、明らかになった主なものを紹介します。

まずは、城内の重要なエリアと考えられる主郭曲輪群の土塁に普請された石積があることです。石積は城内の一部で露出している箇所もあります。また、虎口（出入口）には、織田信長や豊臣秀吉といった当時の権力者の影響を受けた城で見られる「鏡石」に似た大きく平らな石も据えられるなど、石積にも多彩な種類がありました。当時の山城



は土造りが一般的ですが、柏木城跡は大規模に石積が施された「石造りの山城」として注目されています。

さらに、柏木城の築かれた大塩地区には会津と米沢を結ぶ街道があります。この街道を押さえ、街道から城内へ取り込むことによって「関所」的な機能を持たせるとともに、侵入者である敵を狭い箇所に入れて戦うことができる構造になっています。

柏木城跡は東西500m、南北450mの広大な城域を有していますが、遺構の残りがよく、石積を多用し、複雑な形状の虎口を有するなど戦国期最新の築城技術を採用していることや、領国防衛の考え方を知る上で貴重な史跡であることなどが評価され国指定史跡となりました。

もちろん国指定史跡がゴールではなく、地域住民から愛され続け、観光振興や地域活性化を見据えた保存計画の作成が重要なカギとなります。こういった状況を踏まえ、柏木城跡を後世に伝えていくことが我々の使命だと考えています。



令和4年度 会津教育事務所推進プラン

域内の現状

強み

- 各学校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいる。
- 学校生活の中で、子どものよい点や可能性を見だし、褒めるなどの取組を積極的に行っている。
- 各市町村の社会教育が充実し、地域学校協働本部の設置及び学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入が進んでいる。
- 特別支援学級や通級指導教室における特別の教育課程編成の工夫や自立活動の指導の充実に取り組んでいる。
- 運動身体づくりプログラムの全校実施など、組織的な取組により、体力向上が図られている。

弱み

- 小・中学校ともに学力調査の平均正答率が低い。
- 授業等におけるICT活用に不慣れな教員が多い。
- 不登校児童生徒数が小学校でも増加傾向にあり、小・中学校ともに出現率が高い。
- 地域社会における支え合いやつながりの希薄化により地域の教育力が低下しており、地域ネットワークの拡大と強化を図る必要がある。
- 通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒に向けた校内支援体制を整備する必要がある。
- 肥満傾向児出現率が高い。

人間力に満ちた人材の育成 ～ 学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育 ～

<推進ビジョン> 域内の市町村教育委員会、小・中・高等学校長代表者会をはじめとする地域や関係機関と連携し、学校・家庭・地域が一体となって、人間力に満ちた人材の育成に努めます。

※人間力に満ちた人材…学習や経験から学んだ様々な力を生かして、自らの道を切りひらき、社会に貢献することのできる人材

視点① 「学びの変革」の推進【施策1・2・6】

- 個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びへの変革を実現するように要請訪問や「ステップアップ Aizu」を工夫し、教師の自己研鑽の場を充実させます。
- 指導の重点を前期・後期に作成し、「確かな学力」の向上を図るための支援を充実させます。
- ICTの効果的な活用を促し、授業の魅力化と充実に努めます。

視点② 人間性・社会性の育成【施策3】

- 不登校に関するリーフレットを訪問等で活用し、適切な未然防止・初期対応を推進します。
- 魅力的で多様な道徳の授業や特別活動が展開できるよ支援します。
- 「キャリア・パスポート」の活用と学年・校種間の引き継ぎを促し、キャリア教育の推進を図ります。

視点③ 健康・安全に関する指導の充実【施策5】

- 「自分手帳」を効果的に活用し、健康マネジメント力の育成を図ることができるよう支援します。
- 肥満等の健康課題に対応した先行事例などを紹介し、保健・安全指導が充実するように支援をします。
- 各校の体力向上推進計画の見直しを図り、計画の有効性を検証します。

視点④ 家庭の教育力・地域の教育力の向上【施策3・4・5】

- 家庭教育支援者を養成する研修会を行い、更に学校や地域、教育行政・福祉機関と連携しながら家庭教育を応援する「家庭教育支援チーム」の設置を促進します。
- 教職員及び社会教育関係者等を対象に「地域学校協働研修会」、「地域連携担当教職員等研修会」を行い、関係者間の理解促進、連携強化を図ります。

視点⑤ 切れ目のない支援体制の整備【施策3】

- 管理職のリーダーシップの下、校内支援体制の充実に推進するため、児童生徒の実態把握や理解等に関する研修を支援します。
- 合意形成に基づく「個別の教育支援計画」の作成・活用を促し、一人一人の教育的ニーズに応じたインクルーシブ教育を推進します。
- ユニバーサルデザインの視点をいかす指導の啓発に努めます。

視点⑥ 持続可能な教育環境づくり【施策2】

- 教職員の健康保持や児童生徒と向き合う時間・自己研鑽の時間を確保するため、「教職員多忙化解消アクションプランⅡ」に基づく取組を推進します。
- 学校全体の教育力の向上を図るため、校長によるチームとしての学校マネジメントを推進します。
- 校内サービス倫理委員会等、様々な機会を捉えて教職員の倫理観・使命感の高揚を図る取組を支援し、不祥事防止に努めます。

「学びの変革推進プラン」の実現を目指す

- 施策1：「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する
- 施策2：「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大にする
- 施策3：学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる
- 施策4：福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する
- 施策5：人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる
- 施策6：安心して学べる環境を整備する